

第一 まっぴゅコミュニティ

沼津市第一地区コミュニティ推進委員会広報紙

第3号 平成9年10月1日発行



♡♡コミュニティ「シンボルマーク」決まる♡♡
地域の皆さんに応募をお願いしておりました第一地区コミュニティ「シンボルマーク」は、小学生を中心に八十八点の素晴らしい作品が応募されました。
沼津市の中心地域のコミュニティに相応しい作品の中から最優秀賞は添地町・安藤貴子さんに決まりました。

♡選考結果♡

- 最優秀賞・安藤 貴子（添地町）
- 優秀賞・鈴木 聖史（西条町）
- 〃 高田 麻美（白銀町）
- 〃 小林 佑介（西条町）
- 〃 荒井 優美（真砂町）
- 〃 田川 太悠（大手町）

第一地区コミュニティ 「第三十五回第一地区体育祭」を盛大に開催 優勝は僅差で「真砂町」



去る九月七日（日）地域コミュニティ活動の集大成ともいえる多くの来賓の方々と交え、幼児から人生のベテランの方々までの雨と打って変わって残暑が厳が心地よい汗を流した一日でした。
三十五回をむかえた今大会は



コミュニティ推進委員会が発足して初の体育祭でしたが、従来どおり体育部（体育委員会）が中心となり、コミュニティ各部の協力をいただきながら、それ

順位	町名	得点
優勝	真砂町	23
優準	白銀町	22
3	末広町	21
4	大田町	18
5	錦丸町	17
6	上本町	16
7	西条町	15
8	添地町	15
9	連合町	13
10	幡町	10

ぞれ日頃の練習成果やチームワークを発揮、スムーズに運営することが出来ました。

また、例年どおり第一中学校の生徒が競技の運営に携わり、地域の一員としての役割を立派に果たしてくれました。

町内対抗の結果は、真砂町の久しぶりの優勝で幕を閉じましたが、別表のとおり「勝負は時の運」ともいえる僅差であり、来年に向けての各町内の団結と奮起を期待したいものです。

また、競技種目について、子供の減少や得点種目にこだわらないレクリエーション種目の採用など、運営方法も含め皆様のご意見を戴きながら今後の開催に反映していきたいと思っております。

本大会開催にあたり、協賛していただいた方々に紙面を通して御礼申し上げます。

今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

体育部長
加藤 信也

防災火災相違寸部

あすに備えて

いますか!



◇「東海地域で、あす大地震が発生しても不思議でない」という「東海大地震説」が昭和五十一年八月発表され以来二十一年余が経過しました。

この間、県市町村・県民一体となって地震対策に取り組んできました。

他方、東海地域以外の他地域では、大小さまざまな地震が発生し、最近の「北海道南西沖地震(H5)」「阪神淡路大震災(H7)」など未だ記憶に新しいものがあります。

東海地域は何も起こらないこの錯覚が一時高まった防災意識を風化されつつあります。しかし、その時は刻一刻迫っている「迫る!東海大地震」が最近出版(読売新聞社編)され、反響を呼んでいます。

◆古人の言う「備えあれば憂いなし」今一度、ここで見直す時期にきています。

◇既に沼津市内の各自治会とも「自主防災組織」が結成され、防災訓練の実施、防災資機材や防災台帳などの整備がされていることになっていますが、完全なものになっていくのでしょうか?

あすに備えて
考えつづけましょう

◆「自分たちの地域は、自分たちで守る」地域住民が協力し、助け合って、災害からの被害を最小限に食い止める。これが防災の原点です。

◇又いざという時には、冷静な行動をとるためには、日頃の防災訓練参加による知識の習得が大切だとされています。

県市による一斉防災訓練、各自主防災組織ごとに実施される防災訓練や研修会には積極的に参加し、防災活動に役立つ知識を習得しましょう。

◆第一地区も年二回、一斉防災訓練を実施しております。

▼去る九月一日「県下一斉総合防災訓練」は予知型訓練として、十三自治会・自主防災会それぞれの計画で実施し終了しました。この防災訓練参加人員は四八七人でした。

▼来る十二月一日(日)の「県下一斉地域防災訓練」は会場型訓練として、一小校庭で実施を予定しております。皆様の積極的な参加とご協力をお願いいたします。

◇「地震との宿命、どう向かい合ったらいいのか、あすに備えて、我々は、今何をすべきか。それを考えつづけることとが、防災意識を高めることでもある」とされています。

防災指導部長

鈴木 哲雄

若月少年育成部

新成人の
家族へ

第一地区の成人式は、平成十年一月十五日に「高砂殿」において開催されます。

新成人の皆さんには、沼津市より十二月末までにハガキで案内状が届けられます。

このハガキは、現在沼津に在住の方にだけ発送されます。

老人部



社会奉仕に
パワー発揮

地区センターが開館早半年第一地区コミュニティの一翼をになって、地域住民の健康づくり、社会奉仕、友愛活動など市老連第一支部組織を挙げて協力しております。

現在の支部内は十三老人クラブ、会員数は七百七名です。今年の支部会員の年齢構成は六十%が七十五才以上であり

学生や就職で沼津以外に在住の同級生の方も出席できます。出席希望の方には一月一日以降案内状をお送りいたしますので、町内の青少年育成推進委員の方に、ご家族の方からご連絡ください。

式は同窓会的な雰囲気で行われますので、ぜひご出席をお勧めください。

「青少年育成推進委員会」
酒井 明

今後の会員の減少が心配されます。

しかし、支部の老人クラブは所属の単老会長を中心に、いつも笑顔を忘れず、人の和を第一に、残された人生を大切に、会員の皆さんとともに努力してまいります。

今年の「敬老の日」も、沼津文化センターの大ホールは老人パワーで大いに盛り上がりしました。

老人部長

佐藤 正寿

「子持川水系をきれいにする会」発足にあたって

西条町自治会長 大川 倉之助

流域に住む人達の心に安らぎと潤いを与え、魚影の走る美しくきれいな川にしたい、そんな声の高まりから、流域の十一自治会により「子持川水系をきれいにする会」が、九月三十日発足しました。

その名称を子持川水系と呼称するのは、下流が草刈川、観音川と合流するからであり、起点の白銀町城内橋上流から港湾に注ぐ延長約2kmの流域となります。

七月三十日、猛暑のなか関係自治会（第一地区は白銀、西条、真砂、末広町）から自治会長、環境美化推進員など三十名により全川の護岸を歩き実態踏査を行いました。

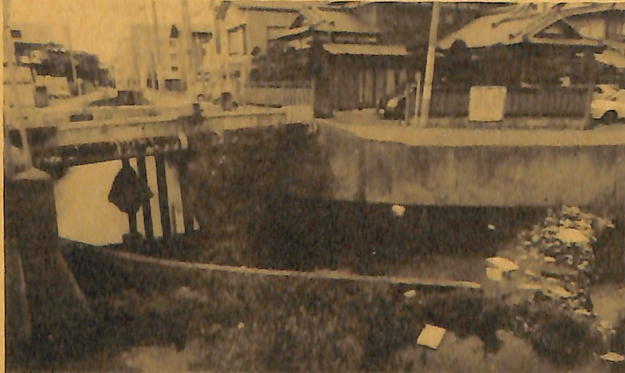
上流部を除き、心なき輩達によって空き缶、自転車、段ボール箱、タイヤなどの不法投棄により至る所に汚い淀み

が見られ悪臭も漂うなど、人間性の欠如とも言えるモラルの低さに啞然とし、早期防正対策の必要性を痛感しました。会則の制定により流域三河川の住民すべてを会員と定め役員として各自治会長、環境美化推進員など三十数名の理事を以て構成、会長に幸町・木村自治会長を選出し健康的な生活環境保持のため川の本流および護岸の清掃保全を積極的に推進することとしました。

そして、誇りうる環境美化保持へのPR、水質保全に向け不法投棄や汚水の流入などに対する指導監視の強化策を進めることになりました。

特に河川管理者である行政庁との密接な連携を図りつつ行政側、地域側のやるべきことの責任分野を明確にし、活

発なデイスカッションによって相互に助言と提言をして行くこととしたほか本会の事業実施計画の早期策定のためにこれからも頻繁に会合を開くことを申し合わせました。本会の始動が、歴史とともに歩みつづけた故郷の川をみんなで愛し、守り育ててゆくことを希求し、地域住民としてのご支援ご協力を切に願っています。



▶ 子持川・草刈川・観音川の合流点（静岡新聞社提供）

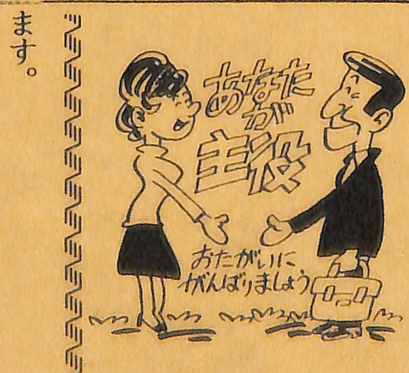
白銀町友和会

当町内には多少趣の変わった青年組織が結成されています。町内会に束縛されずに会員の自主参加による運営活動を行い、自己の研鑽を目標としております。

組織は、防災部、神輿部、総務部からなり、会員家庭より一軒月額百円の会費をいただき運営資金としており、現在五十軒九十名が参加しております。

活動の一端は、年間四回の防災訓練、機材倉庫等の設置救急救命講習会の開催、また消防分団団員の募集、町内祭典の後援、各地神輿渡行応援広報紙発行等の啓蒙活動など紙面では紹介しきれないほどの活動をしております。

当会は、当初平成三年頃から設立機運が高まり、平成六年に有志十人が発起人となり正式に発足し、早四年となり



ます。

この間、大勢の方々にご厚情を戴き、大変力づけられました。特に消防第二分団のご協力には感謝で一杯です。

この寄稿が地域青年活動の一つのあり方として、少しでも参考になればと思います。

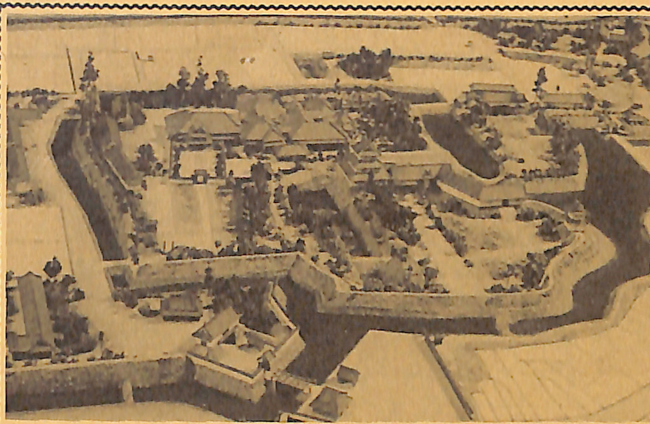
白銀町青年友和会
会長 石井 一雄



☆ぬまづ第一地区 資源紹介 ☆

私たちの住む第一地区は、歴史的にも沼津城下町として栄え、また沼津駅の表玄関として、近郷近在から多くの顧客を迎え、高度商業の集まる沼津の顔でもあります。私たちはこのような環境を今一度見直し、住んでいるまちの素晴らしさを再発見し、このまちに住む誇りと喜びを見いだすことで、明日の地域発展の原動力としなければなりません。

そこで、広報紙「コミュニティぬまづ第一」では、第一地区にある多くの資源について、紙面を通して、シリーズ物として、皆さんに紹介することにしました。次号から紹介いたしますので、ご期待ください。



▲沼津城の復元模型

▶第一地区センター

沼津第一地区

戦後の歩み (その3)

10. 一中にも待望の体育館が落成。

一小の講堂に続いて、待望久しかった体育館の建設も昭和33年11月工事に着工、34年3月には落成した館内で第十回卒業式を挙行了た。

11. 一中生徒数が増加、校舎を増築。

昭和36年2月、生徒数急増に伴う増設工事に着手し鉄筋二階建718㎡の2号校舎が完成した。

12. 一小にプールの竣工をみる。

昭和38年7月3日、総工事費522万円をかけた高学年用、低学年用の二つを持つプールの竣工をみた。

13. 一小に「児童愛護会」が復活する。

児童の保護者であるなしにかかわらず、次代を担う児童の健全な育成に奉仕しようと、一小の先覚者たちが、優れた見識と熱意を傾けて組織した「児童愛護会」を復活させることにした。

そして、“教育資金集めPTA”から、教育そのものの向上を図る“本来のPTA”への脱皮に貢献し、有意義な奨学事業を創始することとした。



編集室だより



▼先日開催された「第一地区体育祭」は、昭和三十七年、

二年後の東京五輪開催で日本中が盛り上がった時期にスタート、以来諸先輩のご尽力により今日の隆盛を迎えることができました。この伝統ある大会の歴史をしっかりと残

しておく必要を感じており、特に発足当時の資料やお話を聞く機会が出来ればと思っています。ご協力をよろしくお願いします。(体育部)

▼広報紙「コミュニティぬまづ第一」に掲載するための情報提供を期待しております。地区センター事務局にご連絡ください。

▼コミュニティのシンボルマークが決まりました。富士山が見下ろす沼津の中心地区に相応しいシンボルマークのよう、お互いに手を取り合っ

て住みよいまち明るく素晴らしい地域づくりを推進しましょう。

